

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果について

1 調査結果

【国語科】

○平均正答率は、県・全国と比較し、上回っています。

○「話すこと・聞くこと」「読むこと」がよくできています。

○情報や語句の関係付けの仕方や表し方を理解し、適切に使うことができます。

△目的に応じて、文章と図表を結び付けるなどして必要な情報を見付けることに課題があります。

△書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作ったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることに課題があります。

【算数科】

○平均正答率は、県・全国と比較し、上回っています。

○各領域ともに県・全国と比較し、上回っていることから基礎基本がよく身に付いています。

○小数、分数を用いた基本的な計算や図形の角の大きさについて正しく理解しています。

△共通する単位分数を基に分数の大きさを捉え、考えを言葉や式で整理し、表現することに課題があります。

△割合の考え方を、言葉と数の両面から整理してとらえる力を育てていくことが、今後の課題です。

【理科】

○平均正答率は、県・全国と比較し、上回っています。

○実験の目的(比較や条件制御)を明確にして学習してきたことが、知識を定着させる一助となったと考えられます。

△実験器具を一人一人が繰り返し扱う場面を増やし、正しい知識・技能を身に付けていくことが今後の課題です。

【質問紙】

○「自分にはよいところがある。」と前向きに捉えている児童が多く、自尊感情が育っています。

○「自分と違う意見について考えることが楽しい。」と感じており、友達の考えに耳を傾け、新しい見方に触れることを前向きに受け止めています。

△家庭で本を読んだり、学習したりするなど机に向かう時間が少ない傾向にあります。

△「困りごとや不安を先生や大人に相談できますか」という質問に、肯定的な回答がやや少ない傾向が見られます。

2 結果を踏まえた授業改善

国語科では、思考ツールを活用し、自分の考えを整理する活動を取り入れていきます。整理した考えを友達と共有し、作文やディベート、プレゼンテーションへと生かす場面を設定していきます。

算数科では、単に「問題を解く」だけでなく、「なぜそうなるのか」といった仕組みを、友達との対話を通して理解する時間を充実させていきます。「公式を覚える」ことにとどまらず、その意味を考え、次の学習へ応用できるような、積み重ねのある学習を目指します。

志津小全体としても、思考ツールやICTの活用をさらに推進していきます。